



■被災地出張授業……1月23日

# 社会人への入り口

講師：浦野 光人 元副代表幹事(ニチレイ 取締役会長)

IPPO IPPO NIPPONプロジェクトによる被災地出張授業が行われた。今回は、浦野光人元副代表幹事が名取市の宮城県農業高校を訪れ、社会人として心掛ければいけないことや、そのためにどんな努力が必要かなどについて語った。



## 人間はみんな支え合っている

自然の力は大きく、その前では人間の存在は小さなものです。地球が誕生して46億年が経ち、あと50億年で太陽系はガスとして散るといわれています。それに対して人間が誕生したのは、わずか500万年前のことです。人間は約1万2,000年前に農業を発明し、大きな進歩を遂げました。しかし、それは地球の汚染をもたらし、産業革命以降はより環境破壊が進み地球環境問題が大きな課題になりました。

このように人間は無力です。しかし、同時に素晴らしい存在でもあります。なぜなら人間はお互いに支え合うからです。誰でも一人では生きることができません。皆さんも家族、先生、仲間、地域の人々などに支えられているはずです。今朝の食卓を思い出してください。そこには日本以外のさまざまな食品が並んでいたことでしょう。日本の食料自給率は40%程度です。つまり、私たちは世界中の人々に支えられているのです。

だから、私たちは世の中に感謝しなければいけません。そうすれば「自分たちも世の中に役立ちたい」と自然に

思うはずですよ。果たして自分は世の中の役に立っているか?と思う人もいるでしょう。しかし、赤ちゃんは生まれてくるだけで、お父さんお母さん、祖父母に幸せと元気を与えます。自信を持ってください。必ず役に立てます。

## 自分を磨いて道を切り開く

皆さんに伝えたいのは、「自分を磨く」ことの大切さです。言われてからやるのではなく、自分から学び行動して、道を切り開いてください。私たちは自分で自分を決定する力を持っています。何も大きなことをする必要はありません。小さな成功を積み重ねていけばいいのです。それがやがて大きな力になるはずです。

学校の勉強でも、基礎的なトレーニングを重ねると同時に、先生から与えられたヒントをもとに自分で考えることを心掛けましょう。それが受験のためだけではない、本当の学力を身に付けることにつながるはずです。

そして失敗を恐れてはいけません。失敗はどんどんしましょう。それは決して無駄にはなりません。皆さんは、PDCAを知っていますか?計画(plan)、実行(do)、評価(check)、改善(act)のプロセスを常に回すことで、失敗も良い方向に変えていけるのです。

さらに、学ぶ時には真剣な眼差しで、相手の話をただ聞くのではなく、自ら積極的に聴き、疑問があれば相手に訊く。この「聞く」「聴く」「訊く」の三つを心に留めて、学ぶようにしてください。そうすれば、きっと「腑に落ちる」はずですよ。これをぜひ体験してもらいたいと思います。

## 責任を取ることをいとわないのが大人

成人は20歳からというのが日本の一般的な見方ですが、私は18歳から社会人としての責任が生まれると考えています。憲法改正の手続きを定めた国民投票法でも、「投票権は18歳以上」となっています。18歳までに社会人としての基礎を学ばなければいけません。

では、「大人」とは何なのか。他人のための面倒を引き受ける覚悟を決めた人間であり、責任を取ることをいとわないのが大人です。最近は「大人になりたくない」という若者も多いようですが、皆さんにはそうあってほしくありません。社会人としての基礎を身に付けた立派な大人になってください。

大人になれば、多くの人が企業で働きます。企業とは何でしょうか。お金をもうけるころだと思っていたら大間違いです。企業とは、自分の得意な分野で、生活者一人ひとりの課題を見つけて、それを解決するころです。私が働く会社は女性の社会進出を受けて、

調理時間の短縮という課題を見つけ、冷凍食品の開発を進めました。企業は社会のためにあります。そこで自分は何ができるのか。企業に就職する皆さんは、真剣に考えてください。

## 互いの価値を認め合いながら協働する

社会に出たら、何が大切になるのでしょうか。まずはルールを守ることです。「知らなかった」では済まされません。

目標管理をすることも大切です。自分で目標を掲げてそれを管理するだけでなく、自分の目標達成に関係する人々と目標を共有し、協力していくことが必要です。企業の中でも、自分の目標と企業の目標、仲間たちの目標をうまく結び付けて目標達成を目指しましょう。

課題を見つけることも忘れないでください。生活者が困っている課題は何

なのか。頭が痛くなるほど必死に考えてください。そこには正解はありません。それでも一生懸命に考えているうちに、自分の進むべき道が見えてくるはずですよ。

そして、仲間を信じてください。働く仲間それぞれ

が自分らしく働き、自分の価値を發揮し、働く仲間同士が互いに価値を認め合いながら協働する。そんな世の中をつくりましょう。その中で、皆さんが自己実現していけることが重要です。それも現状に満足して幸福感に浸るのではなく、未来の自分に思いをはせて、働くことを通して自己実現を図る。それが、私が理想とする社会人の姿なのです。

## “cool head but warm heart”

最後に、皆さんに伝えたいのは「目



標と手段を区別する」ことです。皆さんにとって高校入学は目標でしたか？そうではなかったはずですよ。将来の目標があって、その手段として高校に入学したのではないのでしょうか。社会に出ても、目標と手段をはっきりと区別して行動してください。一つの目標を達成してもまた次の目標が生まれます。人間の目標は死ぬまで続くのです。“cool head but warm heart (熱い志を持ちながら、しかし冷静に議論して行動する)”それを忘れずに、社会人として責任ある行動を取ることを、皆さんに期待します。

## 生徒の感想

●「人は生まれた時から誰かの役に立っている」という話を聞きとても感動しました。私は時々、「自分は何のために生まれてきたんだろう」と思う時があるので、とても心に響きました。ちょっとしたことが大きなことにつながる。それでうれしく思う人がいてくれるというのは、自分にとっても心に残ることだと思います。

●浦野さんは“人間の無力”という話をしていました。人間は、どんなに発展しようと自然という大きなものにはかないません。ですが、その後、浦野さんは“みんなに支えられている”と言っていました。そこで思ったのですが、人間は一人では無力かもしれませんが、一人ではありません。他の周りの人たちに支えられているのです。世の中に支えられ守られているんだと、再確認することができ良かったです。

●浦野さんの話の中で、特に興味深かつ

たのは「18歳成人論」です。日本では20歳で成人式をするためか、高校を卒業しても定職を持たず、ふらふらしたり、親に家事をしてもらう人がたくさんいます。しかし、高校を卒業したら、もっと世の中に目を向け自立するべきだと思います。スイスをはじめ、いろいろな国では、18歳やもっと若いころに成人式やそれに似た儀式をしています。そのせいか、同じ20歳の人を見るにしても日本人が幼く見えてしまうのは私だけでしょうか。日本はモノにあふれ、あふれすぎて処理に手が回らないような国です。同じように人々の心は、あふれるくらい人のことを考えているのでしょうか。「高校を卒業するのだから、もっと人のことを考えて行動しなくては」「もう18歳だから自立しなくては」と一人ひとりが真剣に考えれば、世の中は変わると思います。きっと誰もが「日本を良い国にしたい」と思っているのではないのでしょうか。それならば、一人ひとりが自立しつつも協力

し合えば、いつか日本はモノではなく、心の豊かさであふれる国になると思います。

●私が印象を受けた言葉は「大人は、他人のための面倒を引き受ける覚悟を決めた人間で、責任を取ることをいとわない」です。今の社会人は責任感がなく、自分の責任を人に押し付けたりする最低な人間が必ずいると思う。そういう人間にならないためにも、自分自身、責任感を強く持つことが大事だと思う。

●私たちの学校は普通高校とは異なった「正解のない」専門分野を学べるという利点があることを知ったので、今以上に自分自身の学校に自信や誇りを持ちたいです。

●浦野さんは自分を磨くということを大切にしろと言っていた。自分で自分を決定する力があり、たとえそれが間違っているとしても、自分で自分を決定できるので立ち直ることができることが分かった。高校の校訓である「自啓」の意味がやっと分かった気がした。